

巻頭言

惑星探査と動物占

15年ぐらい前に、「動物占」というのが流行したことを覚えておられるであろうか。基本的には生年月日による占であるが、各人を12の動物に類別し、それぞれの性格や他の動物との相性、円滑な人間関係の秘訣などをまとめたものである。特筆すべきは、現JAXA職員のT氏が学生時代に考え出したものである、ということである。T氏によると、路上で数百人にいろいろな占を試し、結果についてインタビューし、あたっているもの、あたっていないものを分別し、それらを組み合わせて作り上げたそうである。

この演繹的な推定手法は科学的とも言えるが、T氏曰く「素過程の因果関係が証明されていないので、決して科学では無い」とのこと。それはその通りだが、科学においても、素過程がブラックボックスのまま、結果の統計的性質を探究するものもあると思う。惑星科学においても、まず物理的なモデルを作ってから計測によってその妥当性の検証を行っていくやり方と、とにかく現地調査を行ってそこからモデル構築に迫ろうという手法があろう。どちらかが良いということではなく、両方のアプローチが必要であろう。

動物占の生年月日と動物とのマッピングは科学とは言えないが、動物（ある性格のグループ）間の人間関係論（動物関係と言うべきか）については、社会科学であると思う。JAXAの月惑星探査プログラムグループ創設時の上層部の方々は、みなさんオオカミだった。おそろしい組織だったかもしれない。俳優の渡辺謙さんも、本物と同じオオカミである。JAXAの理事長はライオンらしい。やはりトップにふさわしいのか。そして経営企画部は、ライオンにものを言える、トラ、サル、オオカミ、コアラを揃えているという噂もある。たまには、このような社会科学的な考察を試してみるのも、おもしろいだろう。

ちなみに私はコアラである。ぼーっとしている間にパワーを蓄えるので、忙しくなると能力を発揮できない。皆さん、私にあまり仕事を回さないで下さい。

橋本 樹明（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所）